

# COVID-19ワクチン接種後の心筋炎について 親や若者が知っておくべきこと



## 心筋炎とは？

心筋炎（および心膜炎）は心臓内、または心臓周辺部の炎症を表す用語です。よく見られる症状としては、胸の痛み、呼吸困難、心臓の動悸などがあります。ウイルスなどの感染症にかかった場合、体の免疫システムの反応として、この炎症が起きることがあります。

## 心筋炎はよく起きる症状ではなく、 また命に危険が及ぶことはめったに ありません。

アメリカでは毎年20万人近くが心筋炎を発症していますが、致死率は2%以下です。COVID-19ワクチンによって引き起こされたと考えられる心筋炎による死亡は現在アメリカでは確認されていません。



- 伝染性は確認されていません
- 症状は、多くの場合軽度です
- 治療は通常、症状を管理することに焦点をあてた最低限のものです。

## COVID-19ワクチンとの関連性がありますか？

可能性はあります。ワクチン接種後に心筋炎を発症するリスクは極めて稀ですが、症状が起きる可能性はあります。また心筋炎はワクチンを接種していない人にも起きることがあります。

CDC(米国疾病予防管理センター)の安全委員会は、関連性を除外することはできないため、心筋炎および心膜炎とmRNA COVID-19ワクチン（ModernaおよびPfizer-BioNTech製のワクチン）との間に「関連性がある可能性あり」としています。

## ワクチン接種後に気をつけるべき兆候や症状としては、どのようなものがありますか？

心筋炎は、多くの場合、10代から30才以下の若い男性に起こります。二度目の接種後に症状が出る人が多いようです。

CDC(米国疾病予防管理センター)では、最近ワクチンを接種した人々に対し、特に接種してから一週間以内に次のような症状が出た場合、医療機関で診察を受けるよう推奨しています。



- 胸の痛み
- 息切れ
- 脈拍が早い、心臓がドキドキする、鼓動が激しくなるなどの感覚

これらの症状が現れる可能性はごくわずかですが、いずれかの症状が現れた場合は、直ちに医療機関で診察を受けてください。

COVID-19ワクチン接種後から1週間のうちに、熱、頭痛、倦怠感および関節/筋肉痛などの軽度から中度の症状が現れることは異常ではありません。副作用は通常ワクチン接種後から3日以内に現れ始め、数日のみ続きます。

## ワクチンは現在最も有効なCOVID-19対策です

心筋炎のリスクは低く、ワクチンを受けることのメリットは心筋炎のリスクをはるかに上回ります。死亡や病気の予防手段としてのワクチンの有効性は非常に高く、新たに発生中のより危険な変異ウイルスへの予防効果もあります。